

# 和牛産肉能力検定成績

# 和牛産肉能力直接検定成績

比 嘉 喜 政 高江洲 義 晃

## I 緒 言

当場では、昭和56年度より種雄牛候補牛の産肉能力評価のため、和牛産肉能力検定（直接法）を実施しているため、平成元年度購入牛の検定成績について報告する。

## II 検定牛および検定方法

検定牛（種雄牛候補牛）は、肉用牛群改良基地育成事業により認定された雌牛から、計画交配により生産され、産子調査により選定された15頭の雄子牛であった。その概要は、表-1に示した。父牛別の内訳は、安波土井、晴姫、富士晴の息牛がそれぞれ4頭、谷水の息牛が2頭、福美の息牛が1頭であった。

検定方法は、全国和牛登録協会の和牛種雄牛産肉能力検定法（直接法）により実施した。直接法とは、雄子牛を離乳後112日間ほぼ飽食飼育し、その間の増体量と飼料要求率等を調査するものである。

表-1 検定牛の概要

番号	名 号	生年月日	血 統			生 産 地	検 定 期 間
			父	母	母方祖父		
1	阿部千代	1. 1. 20	福 美	ひろや	茂 牡 丹	伊 江 村	1. 8.15~1.12. 5
2	斗 記	63.12. 3	安波土井	さだとく	第3吾妻富士	平 良 市	"
3	晴 清	1. 4. 2	晴 姫	きよしげ	糸 茂	石 垣 市	1.11.21~2. 3.13
4	修 平	1. 6. 21	安波土井	ゆりひめ	一 福	平 良 市	2. 1.16~2. 5. 8
5	八重桜	1. 6. 15	富 士 晴	ふじひろ	中 部 6	石 垣 市	"
6	富 茂	1. 6. 12	富 士 晴	まさしげ	糸 茂	石 垣 市	"
7	第5糸姫	1. 6. 10	晴 姫	はるひかり4	晴 美	石 垣 市	"
8	単 人	1. 5. 10	安波土井	はつひめ2	菊 正	平 良 市	"
9	雪富士	1. 7. 28	晴 姫	ゆきしげ	第7糸桜	石 垣 市	2. 3.13~2. 7. 3
10	糸千代	1. 7. 10	谷 水	ちといと	第7糸桜	石 垣 市	"
11	鉄 人	1.10. 17	安波土井	す ず の	第16笹土	城 辺 町	2. 5. 8~2. 8.28
12	盛富士	1.10. 13	富 士 晴	なかはら	第7糸桜	石 垣 市	"
13	谷 晴	1.10. 4	谷 水	まつはる	晴 美	石 垣 市	"
14	晴 桜	1. 9. 1	晴 姫	はるさくら2	晴 美	石 垣 市	"
15	初富士	1. 8. 25	富 士 晴	はつさか5	第10神奥	伊 江 村	"

### Ⅲ 検定成績

検定成績は、表-2に示すとおりであった。各形質の平均値は、開始時日齢227.5日、開始時体重266.0kg、終了時体重400.2kg、180日補正体重218.3kg、365日補正体重430.8kg DG1.20kg、粗飼料摂取率39.4%、飼料要求率濃厚飼料4.24、粗飼料2.76、DCP0.55、TDN4.16、体型評点82.0であった。

DGについて選抜基準の1.20kg以上の牛は9頭おり、最高は晴桜(No14)の1.45kgであった。DGの最低は修平(No4)の0.89kgであった。365日補正体重については、盛富士(No12)の494.1kgが最も大きく、最も小さかったのは修平(No4)の352.1kgであった。飼料要求率(TDN)については、富茂(No6)の3.77が最も低く、最も高かったのは隼人(No8)の4.84であった。

15頭の平均値を全国平均値と比較すると、DGと365日補正体重はやや劣っていたが、飼料要求率(DCP、TDN)は優れていた。

表-2 検定成績

番号	名号	開始日齢	体重(kg)				DG	粗飼 摂取率	飼料要求率				体型 評点
			開始時	終了時	180日補	365日補			濃飼粗飼	DCP	TDN		
1	阿部千代	207	275.2	412.0	249.2	468.2	1.22	30	4.80	2.03	0.58	4.27	81.4
2	斗記	255	291.0	434.3	214.8	431.7	1.28	39	4.34	2.73	0.56	4.22	82.1
3	晴清	233	312.0	458.4	248.8	484.5	1.31	37	4.25	2.47	0.54	4.05	83.5
4	修平	209	213.5	313.0	188.0	352.1	0.89	44	3.79	2.99	0.52	3.93	80.7
5	八重桜	215	278.8	422.8	241.1	471.7	1.29	36	4.58	2.56	0.58	4.32	83.0
6	富茂	218	238.5	383.5	202.5	428.8	1.29	41	3.75	2.66	0.50	3.77	81.9
7	第5糸姫	220	266.7	393.8	224.0	431.2	1.13	41	4.59	3.13	0.61	4.56	82.4
8	隼人	251	294.5	406.8	220.0	408.8	1.00	43	4.76	3.52	0.64	4.84	82.2
9	雪富士	228	269.5	409.3	220.8	440.5	1.25	44	3.82	3.05	0.52	3.97	81.6
10	糸千代	246	232.2	355.3	179.0	363.0	1.10	43	3.93	2.97	0.53	4.02	81.1
11	鉄人	203	234.7	358.8	211.7	414.2	1.11	42	4.04	2.88	0.54	4.06	81.5
12	盛富士	207	285.0	433.2	252.5	494.1	1.32	37	4.14	2.39	0.53	3.94	83.1
13	谷晴	216	231.3	375.0	198.4	422.5	1.28	36	4.10	2.27	0.52	3.86	81.1
14	晴桜	249	272.7	435.0	206.6	440.8	1.45	29	4.53	1.83	0.54	3.99	82.8
15	初富士	256	294.0	412.5	217.1	409.3	1.06	49	4.17	3.99	0.60	4.60	81.4
	平均値	227.5	266.0	400.2	218.3	430.8	1.20	39.4	4.24	2.76	0.55	4.16	82.0
	標準偏差	18.6	28.1	36.6	21.5	38.5	0.14	5.2	0.34	0.54	0.04	0.30	0.8
	全国平均(S63)	-	-	-	-	438.3	1.22	-	-	-	0.59	4.47	-

なお、これらの検定結果から晴清(No3)、富茂(No6)、盛富士(No12)は、間接検定待機牛として選抜された。また、阿部千代(No1)、雪富士(No9)、晴桜(No14)は、牧牛として利用されることになった。

検定補助：小濱健徳、玉城照夫

# 和牛産肉能力間接検定成績

比 嘉 喜 政 高江洲 義 晃

## I 緒 言

当場では、昭和58年度より種雄牛の遺伝的能力を判定し、産肉性の向上、肉質の改良を行う目的で和牛産肉能力検定（間接法）を実施しているので、平成2年度に同検定を終了した5頭の種雄牛について、その成績を報告する。

## II 検定牛および検定方法

検定した種雄牛は、肉用牛群改良基地育成事業により本県で作出した神林、晴茂、岩波、藤波の4頭と広島県より導入した丸山7で、その概要は表-1に示した。

検定方法は、全国和牛登録協会の和牛種雄牛産肉能力検定法（間接法）により実施した。間接法とは、検定する種雄牛についてその産子（去勢牛）を364日間肥育し、その間の増体量、飼料要求率および肉質等を調査するもので、今回はそれぞれ8頭の調査牛を用いた。

表-1 検定種雄牛の概要

番 号	1	2	3	4	5	
名 号	神 林	晴 茂	岩 波	藤 波	丸 山 7	
登録番号	黒原 1702	黒原 1703	黒原 1704	黒原 1841	黒原 1592	
生年月日	S60. 2. 28	S60. 4. 10	S60. 4. 26	S61. 4. 5	S59. 10. 5	
審査得点	82.7	82.2	84.0	81.8	85.0	
産 地	上野村	石垣市	城辺町	平良市	広島県	
血統	父	神 茂	糸富士	第3吾妻富士	安波土井	初代 14
	母	みねこ	第5しげる	ひでみ	ひめ3	第8まるやま
	父方祖父	第9の2神中	第7糸桜	乙社6	安美土井	乙社6
	母方祖父	第16笹土	板持5	立川17の6	菊 秀	第31青滝
体型 測定 値	体高 (cm)	147	145	154	150.6	152.8
	体長 (cm)	185.3	173.5	194.6	168.8	184.6
	胸囲 (cm)	222	232	243	222	229
	胸深 (cm)	81.5	84	86	82.5	83.5
	尻長 (cm)	57	62	64	62	64
	かん幅 (cm)	56	62	58	50	52
	体重 (kg)	852	938	1061	774	913
検定終了年月日	H 2 . 5 . 11	H 2 . 5 . 11	H 2 . 5 . 25	H 2 . 11 . 16	H 2 . 11 . 16	

### Ⅲ 検定成績

検定成績は、表-2に示すとおりであった。

#### 1. 増体成績

DG（全期間）について、晴茂は0.96 kg、岩波は0.95 kgと全国平均の0.87 kgよりかなり優れていたが、神林、藤波、丸山7は全国平均より劣っていた。

#### 2. 飼料要求率等

飼料要求率（TDN）については、5頭とも全国平均（6.70）より優れていた。特に岩波は6.26とかなり優れていた。

粗飼料摂取率については、岩波が全国平均と同じ22%であった以外は4頭とも全国平均を下回っていた。特に、丸山7は15%とかなり低かった。

#### 3. と殺解体成績

最も重要な形質である脂肪交雑については、晴茂がBMS 2.5で最も高く、藤波と丸山7が全国平均と同じBMS 2.1であった。神林と岩波の脂肪交雑は全国平均をかなり下回っていた。

ロース芯面積については、丸山7が49.0 cm<sup>2</sup>で全国平均（46.0 cm<sup>2</sup>）を上回ったが、他の4頭は全国平均より小さかった。特に藤波は42.0 cm<sup>2</sup>と小さかった。

バラの厚さについては、晴茂が6.7 cmで最も厚く、最も薄い丸山7は5.7 cmであった。皮下脂肪は、岩波だけが2.3 cmと全国平均（2.0 cm）より厚かった。筋間脂肪も岩波だけが5.8 cmと全国平均（5.5 cm）より厚かった。

推定歩留は、丸山7（74.0%）だけが全国平均（73.3%）より優れていた。

表-2 検定成績 (検定材料牛の平均値)

番 号	1	2	3	4	5	全国平均	
名 号	神 林	晴 茂	岩 波	藤 波	丸 山7	(S62~63)	
開始時日齢	273.0	265.5	265.1	278.6	243.5	259.6	
体 重	開始時	278.1	254.8	270.0	251.5	231.1	—
	44週時	558.6	570.0	580.8	514.9	503.6	539.7
	終了時	576.8	602.9	615.5	548.3	535.4	579.3
	D G						
44週間	0.91	1.02	1.01	0.86	0.88	0.91	
全期間	0.82	0.96	0.95	0.82	0.84	0.87	
体 型 測定値	体高 (cm)	134.5	134.5	134.6	133.0	132.4	—
	胸深 (cm)	71.7	73.6	71.3	—	—	—
	かん幅 (cm)	51.1	51.7	50.1	47.2	47.6	—
飼 料 摂取量	濃厚飼料	2429	2744	2590	2490	2515	2473
	稲ワラ	270	305	288	267	279	—
	乾 草	344	340	452	348	176	—
	合 計	614	645	740	615	455	698
粗飼料摂取量	20	19	22	20	15	22	
飼 料 要求率	濃厚飼料	8.13	7.88	7.50	8.09	8.26	—
	粗飼料	2.05	1.85	2.14	2.07	1.50	—
	DCP	0.88	0.85	0.83	0.88	0.87	—
	TDN	6.68	6.42	6.26	6.66	6.55	6.70
と殺解 体成績	屠殺前体重 (kg)	549.7	568.9	585.0	506.0	494.1	—
	枝肉重量 (kg)	348.8	367.3	371.3	328.0	323.0	350.0
	枝肉歩留 (%)	63.4	64.6	63.6	64.7	65.4	—
	ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	44.1	43.6	45.6	42.0	49.0	46.0
	バラの厚さ (cm)	5.8	6.7	6.0	5.8	5.7	—
	皮下脂肪厚 (cm)	1.9	1.9	2.3	1.9	1.7	2.0
	推定歩留 (%)	72.9	73.3	72.7	72.9	74.0	73.3
	筋間脂肪 (cm)	4.1	4.6	5.8	5.5	5.1	5.5
	脂肪交雑 (BMS)	1.7	2.5	1.4	2.1	2.1	2.1

なお、これらの検定結果から晴茂と藤波は基幹種雄牛として選抜された。丸山7は牧牛として利用されることになった。神林と岩波については、淘汰することになった。

検定補助：宮里政人、久田友美

## 試験研究報告 (第28号)

---

平成3年8月26日 印刷  
平成3年8月31日 発行

発行所 **沖縄県畜産試験場**

〒905-04 沖縄県国頭郡今帰仁村字諸志2009-5

電話 0980 (56) - 5 1 4 2

FAX 0980 (56) - 4 8 0 3

印刷 **合資会社 北部高速印刷**

〒905 沖縄県名護市東江5丁目11番7号

電話 0980 (52) - 2 5 4 0 (代)

---